

25,000人が来場

雪を活かし楽しむ地域づくり

第37回只見ふるさと雪まつり

2月14日、15日JR只見駅前広場で第37回只見ふるさとの雪まつりが開催され、約25,000人が来場しました。初日の開会式は風雨に見舞われましたが、天候はしだいに回復し、二日目には青空も見られました。実行委員会では、暖冬による浅雪のため、大雪像作成の雪を集めるのに苦労しました。1月21日から10トントラックで1750台分の雪をまつり会場に運びました。

集められた雪で、高さ13メートル、幅50メートルの大雪像「田子倉ダムと叶津番所」が作られました。また会場内には、小中高校生らによる芸術的な雪像やユニークな雪像が作られ、来場者の目を楽しませていました。

雪まつりは、雪を楽しもうという発想で昭和48年3月に始まりました。今では、只見といえは「雪まつり」といわれるほどになり、町の誇りの一つです。もし、雪まつりがなかったら、只見の冬は、もっと長く感じられるでしょう。まつりの様子を写真で紹介します。



(写真上) 大雪像ステージで踊りや歌が
(写真右) 鏡開きで開会
(写真下) まつりのオープニング梁取太々神楽





白熱した「もと山レース」。3人一組で丸太を載せた木ぞりを引き、1本の丸太を切る速さを競った。

厄払いの儀。餅やみかんがまかれた



みことなり厄払いを見守る雪むすめ



「みんなの心が一つになる時」

— 雪まつり写真館 —



心もあたたまる雪んこ市



復活！天領只見仙嶽太鼓



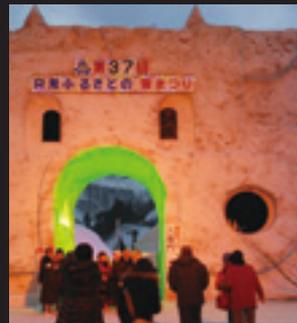
小学生も演じた小川早乙女踊り



井筒Kのジャズコンサートにうっとり



超満員だった音研歌謡ショー



入場門は記念撮影スポット



柏市民踊連盟の交流の踊り



ミズノ木にさした餅を焼いたオンベ



威勢のいい声が響いた雪中大みこし



郷土芸能ステージで只見町民謡会

まつりのクライマックスおめでた祈願花火大会。
「結婚」「誕生」のお祝い「商売繁盛」の願いを込めて



石伏区雪像をつくる会が 3年連続で最優秀賞に輝く

雪まつり「ミニ雪像コンテスト」



「丑（もーすぐ春だよー）」
石伏区雪像をつくる会

3月6日只見地区センターで第37回只見ふるさとの雪まつり「ミニ雪像コンテスト」審査会が開かれ、最優秀賞に石伏区雪像をつくる会の「丑（もーすぐ春だよー）」が選ばれました。雪像をつくる会は3年連続の最優秀賞受賞となりました。応募総数は52点でした。

コンテスト参加作品は、次の日程で写真展示されます。

○展示日程

- ・3月6日～13日（只見地区センター）
- ・3月14日～23日（朝日地区センター）
- ・3月24日～31日（明和地区センター）



◀ グッドデザイン賞
「うし」
明和保育所



「蒲生巨大雪だるま」
蒲生集落活性化委員会

グッドテクニック賞▶

「ふるさと雪んこ雪遊びの思い出」
目黒正さん（宮瀨）



◀ グッドキャラクター賞
「牛」
吉津忠さん（長浜）

グッドアイデア賞▶

「ドラえもん」
只見保育所



◀ 朝日建設賞
「アンパンマン」
朝日保育所（黒谷）